

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	13-2
PDCA	主要事業名	観光振興事業	部課名	市民経済部観光課	担当 内線	中村 328	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 33,193 千円						
	会計		一般会計		歳出科目： 06.01.04.02.50		
	事業概要等	事業概要： 半田の観光資源「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興を図る。 名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業やすしにスポットをあてた食の観光推進事業のほか、新美南吉生誕110年に合わせた観光プロモーションを実施し、より一層の誘客・情報発信を強化する。 半田めぐりんMAPのデジタル化により、日常的な誘客を促進し、すしや知多牛のキャンペーンを実施するなど、回遊性向上と消費促進を図る。 また、令和3年度に構築した物産品等オンライン販売サイト「いいかも半田セレクト」を継続し、事業者支援を図る。					
		事業目的： 半田の観光をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図る。					
		事業内容： いいかも半田キャンペーン推進事業、食の観光推進事業、観光客回遊促進事業、新美南吉生誕110年観光PR事業、物産品等オンライン販売促進事業ほか各種の観光振興施策を実施する。					
		問題点・課題等： 年齢層により、情報収集の媒体が異なるため、様々なツールを活用し、効果的な情報発信を行う必要がある。また、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた新しいスタイルの観光振興を進める必要がある。					
	予算額	主要事業とする理由					
	33,193 千円	集客イベント開催、観光プロモーション、飲食店等への日常的な回遊、食の観光推進など、様々な分野の観光振興施策を展開する事業であり、半田市の観光振興を推進する上で根本的かつ中核的な事業であるため。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費 21,792 千円 国費 8,264 千円 県費 0 千円 その他 3,137 千円	観光客の増加や「歴史と文化のまち半田」の認知度向上による地域経済の活性化と半田市のイメージ向上を図ることができる。					
		目標値や目指すべき状態		令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
		年間観光入込客数	実績値	556	787	—	千人
			目標値	1,730	1,760	1,027	千人
			実績値				
			目標値				
			実績値				
			目標値				
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果					
	52,513 千円	新型コロナウイルスの感染が収束する傾向の中でイベントを予定通り開催した他、新美南吉生誕110年に合わせた観光プロモーション事業、すしのまち半田ブランディング事業等の実施により、観光入込客数は目標値を上回り、「歴史と文化のまち半田」の認知度向上による地域経済の活性化と半田市のイメージ向上につながった。					
			成果指標		令和4年度	単位	
			年間観光入込客数	実績値	1,343	千人	
				目標値	1,027	千人	
C 課題の整理	事業の評価・課題	B ウィズコロナ期の観光推進として、新美南吉を起点とした観光プロモーション事業や、すしのまち半田のブランディング事業、通年のいいかも半田キャンペーンの実施等により日常的な誘客の向上を目指した結果、観光入込客数は、目標値を上回った。また、物産品等オンライン販売促進事業の実施により、半田市の観光物産品のPRをするとともに、事業者の販売を支援することができた。一方で、観光入込客数は、コロナ禍以前の水準には達していないため、アフターコロナに向けた観光推進の取り組みが必要である。					
	今後の事業の方向性	改善推進 令和5年度以降は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光客の動きも活発化するため、市外、県外への観光PRを強化する。また、デジタル社会の進展に沿った取組みを強化し、より多くの観光客を集客するために、SNSマーケティングとして、有料広告やインフルエンサーを活用したPRを実施する等、時代の流れに合わせた広報ツールを新たに使い、誘客を促進する。					
A 課題後の方向性	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	※対象・手段の変更
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない		—